

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	データベース構築	
担当教員の実務経験	Access等を使用したデータベース構築への従事	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	45コマ ・ 3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	Microsoft Office Access 2019を使用し、データベース構築と操作を学習します。	
授業の到達目標	Microsoft Office Access 2019を使用した、基礎から応用的なデータベースの構築とデータベースに対する操作ができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、授業ごとに提出された演習課題によって評価します。	
準備学習・時間外学習	演習課題の実施が授業時間内に終わらなかった場合は、自己学習によって次回授業までに必ず終わらせておくこと。	
使用教科書・教材・参考書	Access 2019 テキスト 基礎編、Accessによるシステム構築問題集20XX改訂版	
授業上の注意点	MicrosoftOfficeAccess2019を使用します。 授業ごとに与えられた演習課題の実施時間は授業時間数に含めます。	
	授業計画（内容）	コマ数
データベース基礎		20
(1)データベースとは		
(2)Accessの基本操作		
(3)テーブルの作成、フィールドプロパティの設定		
(4)クエリ作成		
選択クエリの作成、並べ替え・抽出条件の設定、パラメータクエリの作成、演算フィールドのあるクエリの作成		
(5)フォームの作成		
(6)レポートの作成		
(7)リレーションシップ		
自動結合、手動結合、参照整合性の設定と動作確認、連鎖更新、連鎖削除		
(8)クエリ/レポート応用		
集計クエリ、クロス集計クエリ、不一致クエリ、アクションクエリの作成		
グループ集計レポートの作成		
データベース応用		22
(1)住所管理システムの開発		
(2)メディア管理システムの開発		
(3)売上管理システムの開発		
(4)住所管理システムの開発		
(5)レンタルDVDシステムの開発		
データベース演習		3
(1)データベースの設計		
(2)データベースシステムの開発		
	合計	45
	授業単位数	3

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング応用 (Java)	
担当教員の実務経験	プログラマ・システムエンジニア	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	36コマ・2単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にプログラミングで動作を確認しながら、Javaの基本文法からオブジェクト指向プログラミングの初歩(クラス・インタフェース等)を理解します。</li> <li>・認定試験「Oracle Java Bronze」の合格を目指します。</li> </ul>	
授業の到達目標	Javaの基本文法やオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し、認定試験「OracleJava Bronze」の合格、または同等のJavaプログラミングに関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	学習に遅延が発生しそうな場合は、授業時間外にも学習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE</li> <li>・徹底攻略 Java SE Bronze 問題集</li> </ul>	
授業上の注意点	極力プログラミングで動作確認しながら進めてください。	
授業計画 (内容)		コマ数
Java言語のプログラムの流れ		2
データの宣言と使用		3
演算子と分岐文		3
繰り返し文と繰り返し制御文		3
オブジェクト指向コンセプト		2
クラス定義とオブジェクトの生成・使用		3
継承		3
ポリモフィズムとパッケージ		3
問題演習 (テキスト章末問題、問題集使用)		4
模擬試験		8
プログラミング実習		2
合計		36
授業単位数		2

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング実践 (Java)	
担当教員の実務経験	情報系企業でプログラマ、システムエンジニアとしてシステム開発に従事。	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	36コマ・2単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	Javaプログラミング・コーディングの実技を通して、Javaによるシステム開発の考え方を学びます。 情報系企業でシステム開発経験のある講師が、企業の実態や経験も伝えながら、学生に仕事のイメージを持たせます。	
授業の到達目標	様々なプログラムを実際に作成し、実践に役立つコーディング技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。プログラミング課題、出席率、成果 (達成目標) 等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	独自制作テキスト	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
基礎プログラミング	基礎的な制御文・データ型の理解	4
CUIプログラミング①	ソースファイルの分割	4
CUIプログラミング②	入力に応じた結果出力	4
CUIプログラミング③	配列を利用した結果作成	4
CUIプログラミング④	プログラムの機能拡充	4
GUIプログラミング①	GUIプログラミング基礎	2
GUIプログラミング②	キー入力に応じた制御方法	4
GUIプログラミング③	状況に応じたウィンドウ制御	4
GUIプログラミング④	用途に応じたGUIパーツの活用	4
GUIプログラミング⑤	メニューバーを持つ「フリーブック」の制作	2
※現在、担当教員・企業と交渉中のため、内容が変更となる可能性があります。		
	合計	36
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	アプリケーション実習Ⅱ	
対象学生	情報システム科2年	
実務経験		
授業時間数・単位数	53コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	文書作成、及びプレゼンテーションができるようになり、かつ資格も取得することを目標として、問題演習などを中心に行います。	
授業の到達目標	サーティファイ Word文書処理技能認定試験3級の合格、及びプレゼンテーションができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、資格試験の合否、プレゼンテーションの実施結果及び平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	Microsoft Word2019 クイックマスター基本編 ウィネット 2019対応 Word文書処理技能認定試験3級問題集 サーティファイ	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
Word対策		
(1)Wordの基本		2
(2)文字の入力と編集の基本操作		2
(3)文書の編集		2
(4)文書の印刷		2
(5)文書の作成		2
(6)表を使った文書の作成		2
(7)図形や画像を使った文書の作成		2
(8) 総合学習問題		2
(9) 模擬試験プログラム活用等による演習		10
Powerpoint対策		
(1)プレゼンテーションの作成と管理		2
(2)テキスト、図形、画像の挿入と書式設定		2
(3)表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入		2
(4)画面切り替えやアニメーションの適用		2
(5)複数のプレゼンテーションの管理		2
(6)プレゼンテーション資料の作成及び発表練習		17
合計		53
授業単位数		4

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング基礎 (VBA)	
実務経験		
対象学生	情報システム科 2年	
授業時間数・単位数	50コマ・3単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	Excel を基本とした業務改善・システム作成を目標とし、プログラム未経験者も考慮し、VBAの基礎から始め実践的なコーディングまでを学習していきます。	
授業の到達目標	VBAの基本文法を理解し、実用的なプログラミングを作成できるようになること目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。プログラミング課題、出席率、成果 (達成目標) 等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う場合があります。	
使用教科書・教材・参考書	Excel VBAの教科書 (SB クリエイティブ株式会社)	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	VBAを始めるための準備と仕組み	2
	オブジェクトでExcelの機能にアクセスする	2
	VBAの基本文法	2
	文字列、日付、時間の扱い方	2
	配列・コレクションの仕組み	2
	マクロの実行タイミング	2
	エラー処理とデバッグ	2
	外部ライブラリによるVBAの機能拡張	2
	マクロのパーツ化、ユーザー定義関数	2
	目的セルへのアクセス	2
	セルの値と見た目の変更	2
	VBAでのデータ処理	2
	VBAでのファイル処理	2
	集計・分析結果の出力	2
	外部データとの連携処理	2
	Web上のデータ取り込み	2
	マクロ実行速度向上	2
	シートを利用した入力インターフェイスの作成	2
	ユーザーフォームの利用	2
	オリジナルのプログラム作成	12
	合計	50
	授業単位数	3

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ネットワーク応用	
実務経験		
対象学生	情報システム科 2年	
授業時間数・単位数	15コマ・1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ O ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	ネットワークを構成する様々な技術と、仕組みについての学習を通して、ネットワーク設計に必要な知識と具体的手法を習得します。	
授業の到達目標	ネットワークの仕組みを理解し、ネットワーク設計ができるようになることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。プログラミング課題、出席率、成果（達成目標）等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	欠席した場合、補習を時間外に行います。	
使用教科書・教材・参考書	ストーリーで学ぶ ネットワークの基本（インプレス）	
授業上の注意点		
	<b>授業計画（内容）</b>	<b>コマ数</b>
	OS I 参照モデルのレイヤーを判断することができる。	1
	ポートとプロトコルの目的と利用を説明することができる。	1
	ルーティングとスイッチングを説明することができる。	1
	ネットワークトポロジーを説明することができる。	1
	ワイヤレステクノロジーを説明できる。	1
	クラウドの概念と目的を説明できる。	1
	ネットワークサービスの機能を説明できる。	1
	適切な配線ソリューションをあげられる。	1
	ネットワーク機器を説明できる。	1
	ネットワーク構成の違いを理解できる。	1
	仮想化を説明できる。	1
	WANテクノロジーを説明できる。	1
	復習・問題演習	2
	科目試験	1
	合計	15
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	総合実践Ⅱ	
対象学生	情報システム科2年	
実務経験		
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、学校及び個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [ ○ ] ・ 演習 [ ○ ] ・ 実習 [ ○ ]	
授業の概要	<p>他の科目に分類されない下記のような授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校行事の準備、実施などの総合的な学習</li> <li>2. 全科目の学習状況を確認し、必要な科目の補習</li> <li>3. 教育上、有益と認められる知識や技術に関する特別授業</li> </ol>	
授業の到達目標	<p>上記「授業の概要」のそれぞれの内容について下記の目標を設けます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協調性やコミュニケーション力などの育成、及び充実した学生生活を送ること</li> <li>2. スケジュール管理能力の育成と各科目の遅延回復や弱点補強</li> <li>3. 特別授業として実施する意義と授業内容の理解</li> </ol>	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
(1)球技大会		4
(2)学園祭		4
(3)その他		22
合計		30
授業単位数		2

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職対策Ⅱ	
対象学生	情報システム科2年	
実務経験		
授業時間数・単位数	15コマ・1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	就職活動を円滑に進めるための準備と、就業時に必要となる知識を得るためのセミナーなどを行います。	
授業の到達目標	希望企業への採用内定と就業時に必要となる知識を得ることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1) 就職活動準備(履歴書作成、面接練習など)	10
	(2) 税務セミナー、社会人準備講座、スーツの着こなし講座等への参加	5
	合計	15
	授業単位数	1



## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	Linux実習	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講義 [ ○ ] ・ 演習 [ ○ ] ・ 実習 [ ○ ]	
授業の概要	電子開発学園メディア教育センターのLinuxサーバを、インターネット経由で実際に操作します。シェルプログラミング、ファイル管理、Viエディタなど一般ユーザによるコマンドで、実習を中心に使える技術を身に付けます。	
授業の到達目標	実習をととして Linux の基本的な操作を習得すること、シェルプログラミングが使えることを目標にします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。実習課題や科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	メディア教育センターのサーバは翌年2月末まで24時間接続可能ですので、授業時間外でも実習が可能です。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「イラストでそこそこわかるLinux (翔泳社)」</li> <li>・[参考図書]日経リナックス (日経BP社)</li> </ul>	
授業上の注意点	毎回、実習課題、確認問題、演習課題を用意します。	
	授業計画 (内容)	コマ数
	Linuxの概要ほか	1
	コマンド操作の基本	1
	ファイルとディレクトリの操作 (1)	1
	ユーザ管理	1
	ファイルとディレクトリの操作 (2)	1
	エディタ (1)	1
	エディタ (2)	1
	シェル	1
	シェルの機能とファイルシステム	1
	プロセス	1
	Linux とネットワーク	1
	シェルスクリプト	1
	総合実習	1
	科目試験	1
	合計	14
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	セキュリティ応用	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講義 [ ○ ] ・ 演習 [ ○ ] ・ 実習 [     ]	
授業の概要	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を学習します。また企業としてのセキュリティポリシー策定手順とその要点を学習します。講義ではニュースや事件をとりあげてWeb改ざんやプライバシー情報の流出が企業の信用に与えるダメージを説明するとともにその対策をあげていきます。不正アクセスや内部犯行の手口を知り、企業がとるべき対策を考えていきます。	
授業の到達目標	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を理解し、実際に生かす能力を修得することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	セキュリティ応用（SCC）	
授業上の注意点	毎回、確認問題を用意します。	
授業計画（内容）		コマ数
アプリケーションセキュリティ		1
認証技術とパスワード管理		1
人為的脆弱性		1
マルウェア対策		1
暗号方式とPKI		1
組織的情報セキュリティ対策		1
リスク評価とリスク処理		1
情報セキュリティを脅かす騙しの手口		1
攻撃と侵入		1
技術的セキュリティ対策		1
セキュリティ応用技術1		1
セキュリティ応用技術2・情報セキュリティマネジメントシステムと評価		1
有線/無線LANと携帯端末のセキュリティ		1
科目試験		1
合計		14
授業単位数		1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	卒業研究	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科4年	
授業時間数・単位数	75コマ・5単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	在学中に自分が学んだことや身に付けたこと、チャレンジしたことなどからテーマを選び、調査や研究をして報告書を作成する。また、その内容をプレゼンテーションします。	
授業の到達目標	在学中に習得した知識を駆使した研究成果物を完成させ、卒業研究発表を行うことで、計画立案と実行する能力、進捗管理や目標達成の能力を身に付ける。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、研究成果によって評価します。	
準備学習・時間外学習	研究活動を行う時間が足りない場合は、放課後等の時間を使って進めること。	
使用教科書・教材・参考書	特になし	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. テーマの選定	5
	2. 研究活動	18
	3. 研究報告書の作成	15
	4. プレゼンテーション資料の作成	25
	5. プレゼンリハーサル	4
	6. プレゼン本番	8
	合計	75
		5

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	応用情報対策講座	
対象学生	情報システム科、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	105コマ・7単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	情報処理技術者試験の応用情報技術者試験で問われる知識・技術を、講義動画によるテキスト学習・問題演習を通して身につけ、更に過去問題や模擬試験により理解を深め、試験合格を目指します。	
授業の到達目標	応用情報技術者試験の合格、または同等の情報処理に関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ニュースペックテキスト</li> <li>・ 応用情報技術者試験午前問題集・午後問題集、過去問題集</li> </ul>	
授業上の注意点	受講前に午後基礎講義及び午前問題演習が一通り終了していること。	
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション		2
午前問題演習		10
午後実践講義（全6分野）		28
午後問題演習		25
模擬試験 1		8
模擬試験 2		8
過去試験問題 1		8
過去試験問題 2		8
過去試験問題 3		8
	合計	105
	授業単位数	7

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	各種検定試験対策	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	90コマ ・ 6単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	就職等に有益な検定試験について、本科カリキュラムに関連する授業がない場合や時期や時間割の制限により受講できない場合などに、学生各自が目標とする検定試験を選定し、学習方法やスケジュールを教員と相談の上、各種教材を利用して学習を行います。	
授業の到達目標	選定した検定試験の合格を目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、検定試験合否や模擬試験の結果、平常点等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは学習が不足する場合は、授業時間外での学習が必要です。	
使用教科書・教材・参考書	選定した検定試験のテキスト・問題集等	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
検定試験選定・学習計画立案		2
学習活動(テキスト学習、問題演習)		88
※関連するカリキュラムが他の科にある場合は、極力その授業計画に沿って受講する。		
合計		90
授業単位数		6

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	Androidアプリ開発基礎	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	12コマ・1単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	Java言語によるプログラミング作業を通して、Androidアプリケーション開発の基礎を理解します。 WindowsPC上の統合環境を使用し、Android の基本API、ユーザインタフェースを中心に学習します。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC上にAndroidアプリケーションの開発環境を構築できることを目指します。</li> <li>・ 開発環境を利用して、基本的なアプリを作成できることを目指します。</li> </ul>	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。授業内で作成した実習課題の完成度、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間内に実習課題が完成しない場合は、授業時間外でも実習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	講義補助資料を配布	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	Androidアプリケーションの開発環境構築、Androidの概要	1
	Androidアプリケーション作成（1） [開発の流れと基礎知識、アプリケーションの構成要素、文字列描画・イメージ描画]	2
	Androidアプリケーション作成（2） [イメージ・アニメーション処理、ボタンイベント、オプションメニュー、音声再生]	4
	Androidアプリケーション作成（3） [図形の描画、繰り返し処理、タッチイベント、トースト表示]	5
	合計	12
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	企業研修	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科4年	
実務経験		
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	採用内定先企業にて、OJTやOff-JTなどの企業研修を受けます。	
授業の到達目標	企業研修にて学んだ知識や技術を実際に活用し、一企業人として業務に従事することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、研修先企業の評価と出席率によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	研修先では指示を待つだけではなく、自ら考え行動すること。	
	授業計画（内容）	コマ数
	採用内定先企業の研修計画に従います	60
	合計	60
	授業単位数	4

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	自主課題学習	
対象学生	情報システム科2年	
授業時間数・単位数	30コマ・2単位（左記を標準とし、個々の学年・学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [      ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ○ ]	
授業の概要	<p>社会人になるにあたり、下記の観点から個人ごとテーマを設定し、各自スケジュールを管理しながら学習活動を行います。</p> <p>① 専門学校で学習した内容の発展として、更に理解を深めたい知識や技術</p> <p>② 内定先の業務を行うにあたって、事前に身につけたい知識や技術</p>	
授業の到達目標	社会人になることへの不安を少しでも解消し、自信を持って仕事に就けるようになることを目指します。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、学習態度、出席率、成果（達成目標）を総合的に判断し評価します。	
準備学習・時間外学習	必要に応じて、学外の図書館を利用したり、内定先企業と相談したりします。	
使用教科書・教材・参考書	各自の設定テーマに関する書籍	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
テーマ設定・学習計画立案		1
学習活動		29
合計		30
授業単位数		2